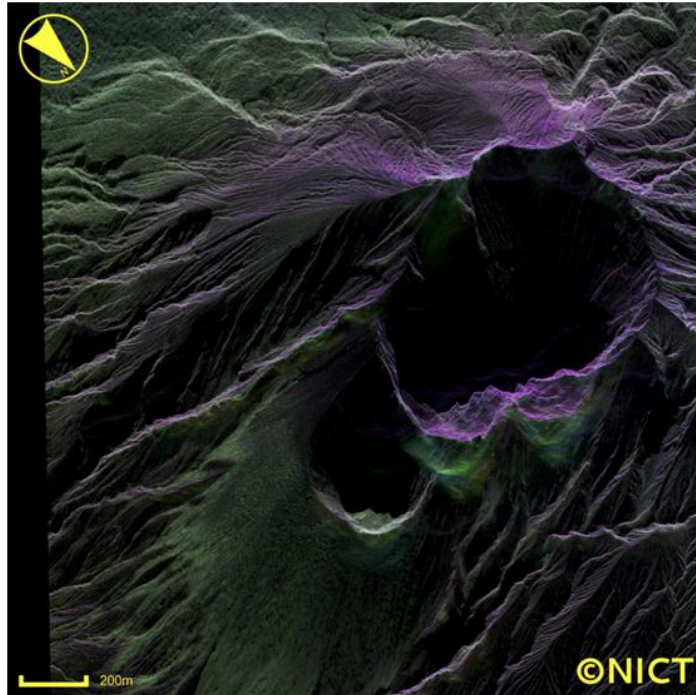


航空機搭載型合成開口レーダ(Pi-SAR2)



上写真: 高速機上処理装置により画像化し、地上に伝送した桜島昭和火口の偏波疑似カラー画像(2013年8月20日観測)

下写真: 航空機に搭載されたPi-SAR2(赤線枠内がレーダのアンテナ)

【概要】

- 夜間、悪天候、噴煙等の条件下でも高高度(1万メートル以上)から30cmの識別ができ、5キロメートル以上の領域を一度に観測できる航空機搭載型合成開口レーダです。
- これにより、災害時等における迅速な状況把握が可能となり、対策等の検討に役立つことが期待されています。
- 本装置の性能を保ったまま、セスナ等の小型航空機にも搭載可能な小型でかつオペレーションを自動化した装置の開発がNICTから技術移転を受けた民間企業において行われています。

【知財・関連情報】

○観測データ、プログラム、ノウハウ及び処理ソフト

○報道発表 [Pi-SAR2の開発](#) 2010年7月

[霧島新燃岳の観測](#) 2011年2月

[桜島の緊急観測](#) 2013年8月

ONICT News [東日本大震災緊急観測](#) 2011年5月号